

ゴールドマン・サックス・ギブズ・コミュニティ支援プログラム

<http://gs.tvac.or.jp/>

作成: 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センターTVAC)

ゴールドマン・サックス(GS)と東京ボランティア・市民活動センター(社会福祉法人 東京都社会福祉協議会)は、2010年から協働しながら、貧困の連鎖を防止することを目的とし、将来を担う子どもたちの教育や、子どもたちの養育環境の改善を継続的・包括的に支援しています。

なお、本プログラムには行政や企業、施設、NPO、学識経験者が参加するアドバイザー委員会が設置され、NPO法人ETIC.による第三者評価報告を受けながら、運営されている。

1. 進学支援プロジェクト

経済的な理由により大学への進学が困難な児童福祉施設の子どもたちを対象に、発達段階に応じた支援を行っています。

1) 大学進学支援事業

- 学費全額及び生活費の支援
- 施設職員や本事業のケースワーカーによる定期面談 など

2) 高校生支援事業

- 大学進学のための塾代助成
- 本事業のケースワーカーによる定期面談
- 公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本による、GS社員と子どもたちのキャリアメンタリングの開催

3) 中学生支援事業

- NPO法人キッズドアの大学生ボランティアによる学習支援、大学訪問、仕事に関するワークショップの実施

4) 小学生支援事業

- NPO法人JAMネットワークによる子どもたちや職員を対象としたコミュニケーション・ワークショップの実施

2. ひとり親就労支援プロジェクト

子どもの貧困問題の要因となっている低所得のひとり親世帯に対して、親のキャリアアップに必要な支援と子どもへの学習支援を行っています。2014年からは一般財団法人東京都母子寡婦福祉協議会と連携して運営しています。

1) 就労面談

- 就労アドバイザーと定期的な面談(託児サービス付)
- 「キャリアアップのための3か年計画」の作成
- キャリアアップ基礎力の向上

2) 資格取得の助成

- 資格取得のための受講料や受験料の助成(上限20万円)

3) 託児の支援

- 資格取得のために必要な託児助成(上限18万円)

4) 子どもの塾代の支援

- 子どもの塾代支援(約1年間)

5) その他

- 修了式
- GS社員からのスーツのプレゼント
- GS社員との交流・研修

3. プロボノ・プロジェクト

NPO法人サービスグラントと連携しながら、子育てや教育、女性のエンパワーメントなどの支援活動を展開するNPOを対象に、GS社員がプロボノとして各自の経験やノウハウを生かして、組織基盤強化を目的とした戦略構築や計画策定に際してのアドバイスをを行い、必要な資金援助も行います。

ゴールドマン・サックス・ギブズ・コミュニティ支援プログラム
事業評価サマリー
事業評価者： NPO 法人 ETIC.

コミュニティ支援プログラム全体

1. 進学支援プロジェクト、ひとり親就労支援プロジェクト、プロボノ・プロジェクトがそれぞれ目的に沿った成果をあげている。
2. 特筆すべき成果として、児童福祉施設職員や活動に取り組む NPO に持続的な変化と、ロールモデルとなりえる当事者(子ども・ひとり親)を輩出することによる波及効果が挙げられる。
3. 各支援事業から貧困の連鎖防止に貢献する新たな知見が得られている。課題や解決策を広く社会へ発信し、さらに社会的資源を巻き込んでいくことが期待される。

進学支援プロジェクト

1. 東京都内にある 63 の児童養護施設のうち、半数を超える 32 施設(51%)がいずれかの支援事業に参画した。延べ参加者は、子どもたち 497 名、施設職員 174 名。
2. 児童養護施設の出身者が専門学校・短大・大学への進学に活用する給付型奨学金「西脇基金」の新規申し込み件数は、本事業開始時の 2010 年の 45 件から、2014 年には 78 件へと 1.7 倍に増加している。様々な関係者の努力が背景にあるが、本事業の影響も少なくないと推測される。
3. 小学生支援事業では、参加児童・職員双方のコミュニケーション力が向上していることがわかる。特に「子供を褒めることが出来る」「子どもの良いところを挙げられる」といった指標で、約 9 割の職員の自己評価が改善しており、子どもたちへの持続的な好影響が期待される。
4. 中学生支援事業では、子どもたちの学習意欲の向上がみられた。実施初回は席についていることが困難だった子どもたちが、学習会が進むにつれて落ち着いて大学生と勉強するようになったという事例が多数報告されている。
5. 高校生支援事業では、これまでの支援対象者 31 名(延べ 40 名)のうち、4 年生大学に 17 名、短大に 3 名が進学した。4 年制大学進学者のうち 6 名は、大学生支援事業の奨学生となっている。
6. 大学生支援事業では、これまでに 13 名の大学生を支援。卒業見込み 2 名、在学中 10 名、中途退学 1 名となっている。在学しているため現時点で評価は下せない。約 3 割とされる東京都内児童福祉施設の中退率と比較すると通学継続率が高く、奨学金とアフターケアの成果が現れているといえる。
7. 進学支援プロジェクトの課題は、未参加施設の参加促進と、大学進学に加えて大学卒業・就職までをサポートするノウハウと体制の確立である。また、本事業の範疇を超えるが、より詳細な事業評価のため、都内児童福祉施設出身者の進学先を調査することが期待される。

ひとり親就労支援プロジェクト

1. 4 年間で都内のひとり親家庭 94 世帯を支援。全ての参加者が就労アドバイザーによる就労面談を受けた。うち 82 名が資格取得や通学費用の助成制度を、24 名が通学のための託児費用助成を、38 名(第 2 期より実施したため対象者は 2,3,4 期参加の 68 名)が子どもの塾等教育費用助成をそれぞれ活用した。
2. キャリアアップ基礎力のうち、「主体性、自己理解力、将来を見通す力、計画力」について、8 割以上が「向上した」と答えており、就労アドバイザーによる就労面談の成果がみられている。
3. 参加開始から 1 年後のアンケートでは、収入について 49%が「上がった」、31%が「下がった」(n=81)、20%が「変わりない」と答えている。なお、55%が正社員への昇格などキャリアアップを達成している(n=80)。
4. 今後の課題は、中長期支援を望むひとり親への継続的な支援体制の構築と、持続性・波及効果を生み出す支援の仕組みづくりである。

プロボノ・プロジェクト

1. 6 事業者(5 つの NPO 法人、1 つの児童養護施設)に対して、半年から 1 年間のプロボノ・プロジェクトを実施。全てのプロジェクトにおいて課題を特定し組織基盤強化に貢献する成果物を納品した。